

Acronis



Backup Service for vCloud Update 8

ユーザースガイド

目次

1 ユーザーズ ガイド	3
1.1 バックアップ サービスについて	3
1.2 サポートされる Web ブラウザ	3
1.3 VMware Tools のインストール.....	3
1.4 基本的な操作	4
1.4.1 サービスへのログイン	4
1.4.2 仮想コンピュータのバックアップ	5
1.4.3 バックアップ計画の適用	6
1.4.4 バックアップ バージョンによる仮想コンピュータの上書き	8
1.4.5 仮想コンピュータのリカバリ	10
1.4.6 仮想コンピュータのバックアップからのファイルのリカバリ	12
1.4.7 保護ステータスの監視	14
1.5 バックアップを使用した操作	15
1.6 バックアップ計画を使用した操作.....	16
1.6.1 バックアップ計画の作成	17
1.6.2 バックアップ計画の編集	23
1.6.3 バックアップ計画の取り消し	23
1.6.4 バックアップ計画の削除	24
1.7 使用状況レポートの生成	24
1.8 サービスの非管理者による使用の有効化	26
1.8.1 ユーザーへの vCloud Director の役割の割り当て	26
1.9 監査ログの表示.....	27
2 用語の参照	28

1 ユーザーズ ガイド

1.1 バックアップ サービスについて

このサービスは、VMware vCloud Director によって管理される仮想コンピュータのバックアップおよびリカバリを有効にします。

このサービスは Web インターフェイスから使用できます。バックアップ サービスにログインするには、vCloud Director の資格情報を使用します。

ログイン後に実行できる操作は、組織に対してシステム管理者によって行われる設定に応じて異なります。このような設定のため、このガイドに記された操作の中には利用できないものもあります。

1.2 サポートされる Web ブラウザ

- Google Chrome 12 以降
- Mozilla Firefox 12 以降
- Windows Internet Explorer 9 以降
- Mac OS X および iOS オペレーティング システムで実行されている Safari 5 以降

他の Web ブラウザ（他のオペレーティング システムで実行している Safari ブラウザなど）では、ユーザー インターフェイスは正しく表示されず、一部の機能が利用できない場合があります。

ブラウザで JavaScript が有効になっていることを確認します。

グラフィカル ユーザー インターフェイスを表示するための画面解像度は、1024 x 768 以上にする必要があります。

1.3 VMware Tools のインストール

電源がオンの状態で、バックアップしようとしているすべての仮想コンピュータに VMware Tools をインストールすることをお勧めします。

VMware Tools のインストールは、ハイパーバイザ レベルでのバックアップの共通要件です。バックアップ サービスは、VMware Tools を使用して、コンピュータの時間整合的なバックアップを作成します。すべてのデータは、バックアップの実行中にデータに変更があった場合でも、バックアップが開始した時点の状態どおりにバックアップされます。

仮想コンピュータに VMware Tools をインストールするには

1. vCloud Director にログインします。
2. 仮想コンピュータの一覧で、仮想コンピュータの **VMware Tools** 列を調べます。デフォルトではこの列は非表示です。
3. この列に「**未インストール**」と表示されている場合、次のように最新バージョンをインストールしてください。
 - a. コンピュータの電源を入れます。
 - b. コンピュータを右クリックして、続いて **[VMware Tools のインストール]** をクリックします。
 - c. 画面の指示に従います。

特定のオペレーティング システムでの VMware Tools のインストールの詳細については、次の VMware ナレッジ ベースの記事を参照してください。

http://pubs.vmware.com/vcd-51/index.jsp?topic=%2Fcom.vmware.vcloud.users.doc_51%2FGUID-F0826E73-7F9F-489C-B0DB-17C7D742B1AF.html。

1.4 基本的な操作

このセクションでは、バックアップ サービスの通常的使用方法について説明します。

1.4.1 サービスへのログイン

次の条件が満たされている場合に、バックアップ サービスにログインできます。

- システム管理者が組織に対しサービスの使用を有効にしている。
- [非管理者ユーザーの場合] 組織管理者がアカウントに対しサービスの使用を有効にしている。

バックアップ サービスにログインするには

1. バックアップ サービスのログイン ページに移動します。ログイン ページの URL は次のようになります。**https://backup.example.com/org/<組織名>**
ログイン ページのアドレスについて不確かな場合は、システム管理者または組織管理者に連絡してください。
2. vCloud Director アカウントのユーザー名およびパスワードを入力します。
3. **[ログイン]** をクリックします。

1.4.2 仮想コンピュータのバックアップ

バックアップできる仮想コンピュータは、**[組織]** タブに一覧表示されます。

The screenshot shows the 'MyOrganization' tab selected in the top navigation bar. Below the navigation bar, there are tabs for 'バックアップ計画の適用', '今すぐバックアップ', 'リカバリ', 'ファイルのリカバリ', 'バックアップ計画の取り消し', and '更新'. The '今すぐバックアップ' tab is active. A table lists vApps with columns: '名前', 'vApp 名', '最新のバックアップ', '保護ステータス', and 'バックアップ計画'. The table contains four rows for VM1, VM2, VM3, and VM4, all associated with vApp1. The '最新のバックアップ' column shows timestamps from 2014/09/09. The '保護ステータス' column shows '未保護' (Not Protected) for all entries.

名前	vApp 名	最新のバックアップ	保護ステータス	バックアップ計画
VM1	vApp1	2014/09/09 10:17 午前	未保護	
VM2	vApp1	2014/09/09 10:17 午前	未保護	
VM3	vApp1	2014/09/09 10:12 午前	未保護	
VM4	vApp1		未保護	

[vApp] 一覧には、所有するすべての vApp が表示されます。**[すべての仮想コンピュータ]** 一覧には、これらの vApp からのすべての仮想コンピュータが表示されます。（組織管理者には、組織内のすべての vApp と仮想コンピュータが表示されます）。

バックアップの開始

バックアップする 1 つまたは複数の仮想コンピュータを選択し、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。

The screenshot shows the '今すぐバックアップ' tab selected in the top navigation bar. The table lists vApps with columns: '名前', 'vApp 名', '最新のバックアップ', '保護ステータス', and 'バックアップ計画'. The table contains three rows for VM3, VM1, and VM2, all associated with vApp1. The '最新のバックアップ' column shows timestamps from 2014/09/09. The '保護ステータス' column shows '未保護' (Not Protected) for all entries. A sidebar on the right shows a notification for VM3: '保護ステータス 未保護 VM を保護するには、バックアップ計画を適用します。' (Protection status: Not Protected. To protect the VM, apply the backup plan.)

名前	vApp 名	最新のバックアップ	保護ステータス	バックアップ計画
VM3	vApp1	2014/09/09 10:12 午前	未保護	
VM1	vApp1	2014/09/09 10:17 午前	未保護	
VM2	vApp1	2014/09/09 10:17 午前	未保護	

スケジュールどおりにバックアップを実行する場合は、代わりにバックアップ計画を適用『6ページ』します。

バックアップの監視

バックアップは、バックアップ サービスのロードに応じて、遅れて開始する場合があります。

バックアップが開始すると、右側の [コンピュータの詳細情報] エリアで、その進行状況を確認できます。

The screenshot shows the 'MyOrg' console with the 'バックアップ ストレージ' (Backup Storage) tab selected. On the left, a list of vApps includes 'empty', 'thin VMs (50)', 'vApp1', and 'vApp2'. The main table lists VMs and their backup status:

名前	vApp 名	最新のバックアップ	保護ステータス	バックアップ計画
VM1	vApp1	バックアップ中...	バックアップ中...	
VM2	vApp1		未保護	
VM3	vApp1		未保護	
VM4	vApp1		未保護	

On the right, the 'VM1' details panel shows a progress bar for 'バックアップ中' (Backing up) at 0% completion. Below the progress bar, it states '保護ステータス 未保護' (Protection status: Not protected) and 'VMを保護するには、バックアップ計画を適用します。' (To protect the VM, apply the backup plan).

同時バックアップされるコンピュータの数と、バックアップされる順序は、バックアップ サービスによって定義されます。

特定のコンピュータ上でバックアップを停止する必要がある場合、そのコンピュータを選択し、続いて [バックアップの停止] をクリックするか、進行状況バーの近くにある停止ボタン (■) をクリックします。

結果の表示

仮想コンピュータのバックアップが成功すると、新しく作成されたバックアップは、[バックアップ ストレージ] タブの [バックアップ] 列に表示されます。

The screenshot shows the 'MyOrg' console with the 'バックアップ ストレージ' (Backup Storage) tab selected. The main table lists VMs and their backup data:

コンピュータ名	vApp 名	ストレージ使用状況	バックアップデータ
VM1	vApp1	70 MB	91.9 MB
VM2	vApp1	862 KB	45.1 MB
VM3	vApp1	242.5 KB	9.6 MB

On the right, the 'VM2' details panel shows a list of backups. The first backup is dated '2014/09/09 10:17 午前' and has a status of '成功' (Success). The second backup is dated '2014/09/09 10:11 午前' and has a status of '失敗' (Failure).

1.4.3 バックアップ計画の適用

仮想コンピュータにバックアップ計画を適用すると、コンピュータのバックアップの作成および削除を自動化できます。

バックアップ サービスをどのように構成するかに応じて、自身のバックアップ計画、またはシステム管理者に共有されるバックアップ計画、あるいはその両方を作成できます。

バックアップ計画を仮想コンピュータに適用するには

1. **[すべての仮想コンピュータ]** 一覧で 1 つまたは複数の仮想コンピュータを選択するか、**[vApp]** 一覧で vApp 全体を選択します。vApp 全体を選択した場合、バックアップ計画は、vApp 内のすべてのコンピュータと、将来表示される新しいコンピュータに適用されます。
2. **[バックアップ計画の適用]** をクリックします。



3. コンピュータに適用するバックアップ計画を選択します。たとえば、**[日単位]** を選択します。

バックアップ計画の適用

VM2

バックアップ計画: 日単位

スケジュール:
毎日 5:00 AM に実行

保持ルール:
1 週間バックアップを保持します

バックアップ オプション

暗号化: 無効
通知: 無効
除外: 未指定
VSS: 有効

OK キャンセル

バックアップ計画には、バックアップ サービスに関する次の指定内容が含まれます。

- **スケジュール:** バックアップを行う時点と頻度。
- **保持ルール:** バックアップを格納する期間。
- **バックアップ オプション** 『20ページ』。

4. **[OK]** をクリックします。

適用されたバックアップ計画の名前は、**[バックアップ計画]** 列に表示されます。以前に別のバックアップ計画をコンピュータに適用した場合、そのバックアップ計画は取り消されます。

使用に関するヒント

- **[保護ステータス]** 列には、最新のバックアップが正常に完了したか（**[OK]**）、失敗したか（**[エラー]**）が表示されます。
- 失敗したバックアップを再開する必要がある場合は、コンピュータを選択し、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。コンピュータは、バックアップ計画設定に従ってバックアップされます。ただしこのときには、保持ルールは適用されません。
- 本当に必要な場合にかぎり、**[暗号化]** 設定が異なる（パスワードが異なる場合も含む）バックアップ計画に変更します。この操作は許可されていますが、何らかの不便が生じる可能性があります。詳細については、**[バックアップ計画の編集]** 『23ページ』の「暗号化の変更による影響」を参照してください。

1.4.4 バックアップ バージョンによる仮想コンピュータの上書き

このリカバリ手順は、直接 **[組織]** タブから簡単に実行できます。

コンピュータの上書きは、その元のディスクの内容だけが上書きされることを意味します。バックアップ後に追加されたハード ディスクの内容は同じままです。CPU およびメモリ設定などのコンピュータの設定と、ネットワーク アダプタの MAC アドレス (物理アドレスとも呼ばれます) も保持されます。

名前を変更した、または別の vApp に移動したコンピュータは、新しいコンピュータと見なされます。このコンピュータを上書きするには、コンピュータの名前を変更したりコンピュータを移動した後で作成したバックアップが必要になります。古いバックアップを使用する必要がある場合、「仮想コンピュータのリカバリ」 『10ページ』の説明に従って進めてください。

リカバリの設定

1. **[組織]** タブで、リカバリするコンピュータを選択し、続いて **[リカバリ]** をクリックします。



2. **[リカバリ ポイント]** で、コンピュータがリカバリされる日時を選択します。デフォルトでは最新のリカバリ ポイントが使用されます。

仮想コンピュータのリカバリ ×

VM1

リカバリ ポイント: 2014/09/09 10:02 午前

☐ リカバリ後に仮想マシンの電源を投入します

OK キャンセル

バックアップしたコンピュータで使用されていた 1 つまたは複数のネットワークが vApp にもはや存在しない場合、仮想コンピュータのネットワーク アダプタを vApp のネットワークにマップするように求められます。

3. **[オプション] [リカバリ後に仮想マシンの電源を投入します]** チェック ボックスをオンにします。
4. **[OK]** をクリックします。

リカバリの進行状況の監視

リカバリが開始すると、コンピュータは **[リカバリ中]** 保護ステータスになります。リカバリの進行状況は、右側の **[コンピュータの詳細情報]** エリアに表示されます。

MyOrg [バックアップ ストレージ](#) [バックアップ計画](#) [設定](#) [ログ](#)

すべての仮想コン...

バックアップ計画の適用 今すぐバックアップ リカバリの停止 バックアップ計画の取り消し 更新

名前	vApp 名	最新のバックアップ	保護ステータス	バックアップ計画
<input checked="" type="checkbox"/> VM1	vApp1	2014/09/09 10:03 午前	リカバリ中...	日単位
<input type="checkbox"/> VM2	vApp1		未保護	
<input type="checkbox"/> VM3	vApp1		未保護	
<input type="checkbox"/> VM4	vApp1		未保護	

VM1

リカバリ中... 0%完了...

保護ステータス OK

通知

リカバリを停止する必要がある場合は、**[リカバリの停止]** ボタンか、進行状況バーの近くにある停止ボタン (■) をクリックします。元のコンピュータが破損する可能性があります。

リカバリが完了した後、成功したか失敗したかに関する情報が、**[コンピュータの詳細情報]** エリアに表示されます。

1.4.5 仮想コンピュータのリカバリ

これは一般的なリカバリ手順です。既存の仮想コンピュータを上書きする場合とは異なり、この手順では、削除した仮想コンピュータをリカバリし、バックアップからリカバリすることによって新しい仮想コンピュータを作成し、コンピュータのネットワーク設定を変更できます。

リカバリの設定

1. [バックアップ ストレージ] タブを開きます。



2. バックアップしたコンピュータの一覧でリカバリするコンピュータを選択し、続いて [リカバリ] をクリックします。



3. [リカバリ ポイント] で、コンピュータがリカバリされる日時を選択します。デフォルトでは最新のリカバリ ポイントが選択されます。
4. [ターゲット vApp] で、コンピュータをリカバリする先の vApp を指定します。デフォルトでは、元の vApp が選択されます。

元の vApp が組織内にもはや存在しない場合、元の vApp を再作成してコンピュータをその vApp にリカバリできます。そのようにするには、**[元の vApp の再作成]** を選択します。vApp は、コンピュータがバックアップされたときに保持していたパラメータで作成されます。

5. **[リカバリ後のコンピュータの名前]** には、リカバリしたコンピュータの vApp での名前を入力します。デフォルトでは、元のコンピュータの名前が選択されます。

この vApp に同じ名前のコンピュータが存在している場合、ソフトウェアは vCloud Director でコンピュータの一意の識別子を調べます。同じ一意の識別子を持つコンピュータは上書きされます。コンピュータが別の一意の識別子を持つ場合、ソフトウェアは新しい仮想コンピュータを作成して、**(1)** などのサフィックスをその名前に付加します。

6. **[追加パラメータの表示]** で、次のいずれかの操作を行えます。

[追加パラメータの非表示](#)

NIC#	接続済み	ネットワーク	プライマリ NIC	IP モード	IP アドレス
0		なし		DHCP	DHCP サーバーから...

[+ ネットワークアダプタの追加](#)

☐ MAC アドレスの保存

- **[コンピュータ名]** で、ネットワーク上でコンピュータに与えられている名前を変更するか指定します。これは、ゲスト オペレーティング システムで定義された名前です (**[コントロール パネル] > [システム] > [システムのプロパティ] > [コンピュータ名]**)。
- **[ネットワーク アダプタ]** の下で、既存のアダプタの設定を変更または指定するか、ネットワーク アダプタを追加または削除します。

詳細。 ネットワーク アダプタを追加するには、**[ネットワーク アダプタの追加]** をクリックし、続いてその設定を指定します。ネットワーク アダプタを削除するには、そのアダプタの横にある **[削除]** () ボタンをクリックします。

- **[MAC アドレスの保存]** で、コンピュータのネットワーク アダプタ (新たに追加したアダプタを除く) が元のコンピュータのアダプタと同じ MAC アドレスを持つかどうかを指定します。MAC アドレスの競合を避けるために、元のコンピュータが存在し上書きしない場合は、このチェック ボックスをオンにしないようにしてください。

7. **[オプション] [Power on the virtual machine after recovery] (リカバリ後に仮想コンピュータの電源を投入します)** チェック ボックスをオンにします。

8. **[OK]** をクリックします。

リカバリの進行状況の監視

リカバリの進行状況は、右側の **[コンピュータの詳細情報]** エリアに表示されます。

MyOrg バックアップ ストレージ バックアップ計画 設定 ログ

リカバリの停止 削除 更新

コンピュータ名	vApp 名	ストレージ使用状況	バックアップデータ
<input checked="" type="checkbox"/> VM1	vApp1	70 MB	91.9 MB
<input type="checkbox"/> VM2	vApp1	862 KB	45.1 MB
<input type="checkbox"/> VM3	vApp1	242.5 KB	9.6 MB

VM1

リカバリ中... 99 % 完了...

バックアップ

2014/09/09 10:16 午前

2014/09/09 10:02 午前

リカバリを停止する必要がある場合は、**[リカバリの停止]** ボタンか、進行状況バーの近くにある停止ボタン (■) をクリックします。

リカバリが完了した後、成功したか失敗したかに関する情報が、**[コンピュータの詳細情報]** エリアに表示されます。

1.4.6 仮想コンピュータのバックアップからのファイルのリカバリ

この手順では、仮想コンピュータ自体をリカバリせずに、仮想コンピュータのバックアップからファイルおよびフォルダをリカバリできます。

選択したファイルおよびフォルダは、.zip ファイルとしてダウンロードに使用できます。

FAT、FAT32、NTFS、Ext2、Ext3、および Ext4 のファイル システムのボリュームからファイルをリカバリできます。どのファイル システムであっても、論理ボリュームとも呼ばれる Linux LVM (論理ボリュームマネージャ) によって管理されるボリュームと、Linux ソフトウェア RAID と呼ばれる複数ディスク (MD) デバイスからは、ファイルをリカバリできません。

仮想コンピュータのファイルをリカバリするには

1. **[組織]** タブまたは **[バックアップ ストレージ]** タブを開きます。
2. リカバリするファイルを含む仮想コンピュータを選択し、**[ファイルのリカバリ]** をクリックします。
3. **[リカバリ ポイント]** で、ファイルをリカバリする日時を選択します。

サービスは、その時点にコンピュータ上に存在していたボリューム、ファイル、およびフォルダを表示します。ファイルをリカバリできないボリュームは表示されません。

ファイルのリカバリ



XP

リカバリポイント:

2014/09/09 10:59 午前

名前	修正日	サイズ
▼ C:		
▶ Documents and Settings	2014/03/10 7:51 午前	
▼ Program Files	2014/03/10 7:51 午前	
▶ Acronis	2014/03/10 7:51 午前	
▶ Common Files	2014/03/10 7:51 午前	
▶ ComPlus Applications	2011/08/27 2:51 午後	
▼ Internet Explorer	2011/08/27 2:51 午後	
▶ Connection Wizard	2011/08/27 2:51 午後	
▶ SIGNUP	2011/08/27 3:11 午後	
▼ HMMAPI.DLL	2008/04/14 3:00 午後	38 KB
▼ iedw.exe	2008/04/14 3:00 午後	18 KB
▼ IEXPLORE.EXE	2008/04/14 3:00 午後	91 KB
▶ Messenger	2011/08/27 2:51 午後	
▶ microsoft frontpage	2011/08/27 2:53 午後	
▶ Movie Maker	2011/08/27 2:51 午後	
▶ MSN	2011/08/27 2:50 午後	
▶ MSN Gaming Zone	2011/08/27 2:51 午後	
▶ NetMeeting	2011/08/27 2:51 午後	
▶ Online Services	2011/08/27 2:51 午後	

OK

キャンセル

リカバリするファイルおよびフォルダを選択し、**[OK]** をクリックします。

リカバリの完了後、.zip ファイルをダウンロードするリンクが、右側にある [コンピュータの詳細情報] エリアの **[バックアップ ストレージ]** タブに表示されます。

MyOrg バックアップ ストレージ [バックアップ計画](#) [設定](#) [ログ](#)

リカバリ	ファイルのリカバリ	削除	更新
コンピュータ名	vApp 名	ストレージ使用状況	バックアップ データ
profile2	不明	70.1 MB	91.9 MB
▼ VM1	vApp1	70.1 MB	91.9 MB
VM2	vApp1	862 KB	45.1 MB
VM3	vApp1	248.5 KB	9.6 MB
w2k3_x64_thin_50gb - 2-1	thin VMs (50)	70.5 MB	92.5 MB

VM1

通知

▼

✓ ファイルのリカバリが成功しました

2014/09/09 11:14 午前

ダウンロード (D)

新しいタブで開く (T)

新しいウィンドウで開く (W)

シークレットウィンドウで開く (G)

名前を付けてリンク先を保存 (S)...

2014/09/09 11:02 午前

リンクアドレスをコピー (C)

名前を検証 (N)

バックアップ

2014/09/09 11:02 午前

2014/09/09 10:57 午前

このリンクは 24 時間有効です。サービスにログインしているときにのみリンクを使用できます。

ファイルは、全体的なフォルダ構造で .zip ファイルにまとめて保存されます。たとえば、**C:\Documents\Report.doc** ファイルは **Drive(C)\Documents** フォルダの .zip ファイルに保存されます。

元のコンピュータへのファイルのリカバリ

直接、元の仮想コンピュータにファイルをリカバリするには、次のいずれかの方法を使用します。

- **システム ネットワーク共有にファイルを展開する。** .zip ファイルをコンピュータにダウンロードした後、元の仮想コンピュータの電源を入れ、**\\VM1\c\$** などのネットワーク共有にファイルを展開します（このネットワーク共有は **VM1** 仮想コンピュータの C ボリュームに対応します）。このリカバリ方法は、Windows を実行している仮想コンピュータでのみ機能します。その仮想コンピュータのローカル管理者の資格情報を提供する必要があります。
- **仮想コンピュータ上のサービスにログインする。** 仮想コンピュータの電源を入れ、ブラウザを起動し、サービスにログインしてから、.zip ファイルをダウンロードしそこからファイルを展開します。

1.4.7 保護ステータスの監視

組織 タブの **[保護ステータス]** 列には、仮想コンピュータまたは vApp がどの程度保護されているかが示されます。

コンピュータの保護ステータス

下の表には、重大性の順序（重大性の最も低いものから最も高いものの順）でコンピュータの保護ステータスが一覧表示されています。

ステータス	意味
未保護	バックアップ計画がコンピュータに適用されていません。
バックアップなし	バックアップ計画はコンピュータに適用されていますが、バックアップは実行していません。

OK	バックアップ計画はコンピュータに適用されており、最新のバックアップは正常に完了しました。
エラー	バックアップ計画はコンピュータに適用されており、最新のバックアップは失敗しました。

バックアップ操作または復元操作が実行しているときには、これらのステータスではなく **[バックアップ中...]** または **[リカバリ中...]** のステータスが表示されます。

注意 「今すぐバックアップ」操作は、バックアップ計画がコンピュータに適用されない限り、保護ステータスに影響しません。

vApp の保護ステータス

vApp の保護ステータスは、vApp 内のコンピュータの中で最も重大なステータスです。このステータスは、コンピュータが現在バックアップされているかリカバリされているかには左右されません。

1.5 バックアップを使用した操作

[バックアップ ストレージ] タブには、バックアップされた仮想コンピュータが一覧表示されます。それぞれのコンピュータには 1 つまたは複数のバックアップがあり、リカバリ ポイントとも呼ばれます。バックアップは、右側の **[バックアップ]** エリアに一覧表示されます。

バックアップを選択すると、**[コンピュータの詳細情報]** エリアには、バックアップの時点でのコンピュータのコンピュータ名、ゲスト オペレーティング システム、および IP アドレスが示されます。

バックアップを使用した次の操作を利用できます。

- **バックアップからコンピュータをリカバリする**には、コンピュータを選択し、**[リカバリ]** をクリックします。「仮想コンピュータのリカバリ」『10ページ』を参照してください。
- **コンピュータの 1 つまたは複数のバックアップを削除する**には、コンピュータを選択して **[削除]** をクリックします。開かれたウィンドウで、削除するバックアップを選択して **[削除]** をクリックします。

- **複数のコンピュータのすべてのバックアップを削除する**には、コンピュータを選択して **[削除]** をクリックします。

ストレージ使用状況/バックアップ データ

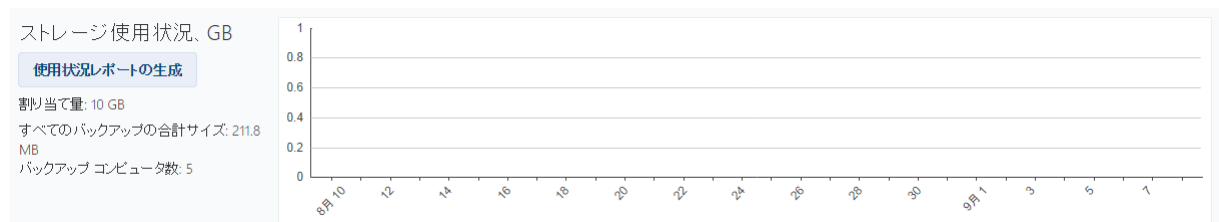
このエリアには、バックアップ サービス割り当て量設定に応じて、ストレージ使用状況またはバックアップ データのどちらかに関連した情報が示されます。

このエリアは管理者だけが利用できます。ここには次のパラメータが含まれます。

- 組織のストレージのクォータ（システム管理者が設定した場合）。
- バックアップ ストレージに保存されたバックアップの合計サイズ、またはバックアップされたデータの合計容量。
- バックアップされた仮想コンピュータの数。
- 割り当て量にほぼ到達した場合（80 パーセント以上使用）または割り当て量を超過した場合（100 パーセント以上使用）に関するアラート。

ストレージ使用状況に関する履歴データを確認するには、エリアを展開します。

- 列の図は、過去 30 日間のサービス使用状況を表します。図では、赤色の列はストレージのクォータを超過した日を、オレンジ色の列はストレージのクォータにほぼ到達した日を示します。



- 特定の期間のサービス使用状況に関する包括的なレポートを生成するには、**[使用状況レポートの生成]** 『24ページ』 をクリックします。

1.6 バックアップ計画を使用した操作

[バックアップ計画] タブには、仮想コンピュータに適用できるバックアップ計画が示されます。

次のバックアップ計画が示されます。

- **システムのバックアップ計画** (🔗)。システムのバックアップ計画は、システム管理者により組織で共有されます。そのスケジュールと保持ルールは、システムの管理者のインターフェイスからしか変更できません。ただし、これらの計画の暗号化や通知などのバックアップ オプションは有効にすることができます。有効にするには、**[オプションの設定]** をクリックします。これらのオプションは組織内でのみ有効になります。
- **組織内で作成されたバックアップ計画** (🔗)。組織管理者である場合、これらのバックアップ計画を使用してすべての操作を実行できます。非管理者ユーザーは、自身で作成したバックアップ計画を使用してどの操作も実行できます。**[所有者]** 列にはバックアップ計画を作成した人物が表示されます。システム管理者によって作成されたバックアップ計画の所有者は、**システム**です。

1.6.1 バックアップ計画の作成

既存のバックアップ計画を使用するだけでなく、自身のバックアップ計画を作成できます。

バックアップ計画を作成するには

1. **[バックアップ計画]** タブを開きます。
2. **[作成]** をクリックします。
3. バックアップ計画の名前を入力します。この名前は、バックアップ計画の一覧にある他のバックアップ計画とは異なる名前にする必要があります。
4. スケジュールの種類を、**[日単位]**、**[週単位]**、**[GFS (Grandfather-Father-Son)]**、または **[時間単位]** から指定します。
5. **[スケジュール]** および **[保持ルール]** タブで、バックアップ計画のスケジュールと保持ルール 『17ページ』 を指定します。
6. **[オプション]** タブでバックアップ オプション 『20ページ』 を指定します。
7. **[OK]** をクリックします。

バックアップ計画の作成後、仮想コンピュータに適用 『6ページ』 できます。

1.6.1.1 スケジュールおよび保持ルール

バックアップ操作は、指定したスケジュールに従って実行します。実行後に生成されたバックアップは、保持ルールに従って保持され、その後削除されます。

スケジュールされた時刻は、バックアップ サービスにログインしたコンピュータ上で設定されたタイムゾーンに従って表示されます。たとえば 07:00 に実行するようにバックアップをスケジュールした場合、vCloud インフラストラクチャが物理的に位置しているタイムゾーンとは無関係に、コンピュータの時計が 07:00 になるとバックアップは実行されます。コンピュータのタイムゾーン設定を変更した場合、スケジュールは変わりませんが、別の開始時刻が表示されます。

次のスケジュールの種類と対応する保持ルールを使用できます。

時間単位のバックアップ

スケジュール。 バックアップを実行する曜日とバックアップ間の時間間隔を選択します。
[開始] および **[終了]** で、バックアップが実行される期間の開始と終了を指定します。

保持ルール。 バックアップを保持する期間を指定します。

デフォルトで、バックアップは平日 4 時間ごとに実行します。バックアップは 1 週間保持されます。

日単位のバックアップ

スケジュール。 バックアップを実行する曜日と時刻を選択します。

保持ルール。 バックアップを保持する期間を指定します。

デフォルトで、バックアップは月曜日から金曜日の 22:00 に実行します。実行後のバックアップは、1 週間保持されます。

週単位のバックアップ

このスケジュールの場合、指定した数の週に一度、バックアップは実行します。

スケジュール

1. 週の数を選択します。
2. バックアップを実行する曜日と時刻を選択します。

デフォルトで、バックアップは、毎週、バックアップ計画が作成された曜日の 22:00 に実行します。

保持ルール

バックアップを保持する期間を指定します。

デフォルトでは、バックアップは 4 週間保持されます。

GFS (Grandfather-Father-Son)

このスケジュールは、バックアップの長期ストレージに役立ちます。

このスケジュールを使用すると、最近の各日の単一のバックアップと、最近の各週の単一のバックアップが得られます。さらに以前の期間について、月ごとのバックアップが 1 つずつ得られます。

スケジュール

1. バックアップを実行する曜日と時刻を選択します。
2. これらの曜日以外では、**[週単位/月単位のバックアップを次の日に実行します]** に対して 1 日を選択します。その日に実行されるバックアップは、週単位のバックアップおよび月単位のバックアップと考えられます。その他の日に実行されるバックアップは、日単位のバックアップと考えられます。

デフォルトで、バックアップは月曜日から金曜日の 22:00 に実行します。週単位/月単位のバックアップには金曜日が選択されています。

保持ルール

日単位、週単位、および月単位のバックアップを保持する期間を指定します。

デフォルトの設定は次のとおりです。

- 日単位のバックアップ:5 日（推奨の最低値）
- 週単位のバックアップ:7 週間
- 月単位のバックアップ:12 ヶ月

例

デフォルト設定（月曜日から金曜日にバックアップを実行、金曜日に週単位/月単位のバックアップを実行、デフォルトの保持ルール)を使用し、3 月 1 日月曜日にバックアップ計画を適用するとします。

次の表に、4 月 30 日金曜日に残されている日単位 (D)、週単位 (W)、月単位 (M)のバックアップを示します。 灰色の背景で示されたバックアップは 4 月 30 日まで削除されます。

	月	火	水	木	金	土	日
3 月 1 ～ 7 日	D	D	D	D	W	-	-
3 月 8 ～ 14 日	D	D	D	D	W	-	-
3 月 15 ～ 21 日	D	D	D	D	W	-	-
3 月 22 ～ 28 日	D	D	D	D	M	-	-
3 月 29 日 ～ 4 月 4 日	D	D	D	D	W	-	-
4 月 5 ～ 11 日	D	D	D	D	W	-	-
4 月 12 ～ 18 日	D	D	D	D	W	-	-
4 月 19 ～ 25 日	D	D	D	D	W	-	-
4 月 26 日 ～ 5 月 2 日	D	D	D	D	M	-	-

1.6.1.2 バックアップ オプション

[オプション] タブでバックアップ操作のパラメータを構成します。

暗号化

バックアップを暗号化するために使用するパスワードを指定します。誰かがバックアップを削除しようとしたたり、バックアップからデータをリカバリしようとしたときに、パスワードプロンプトが表示されます。

バックアップは、AES-256 暗号化アルゴリズムで暗号化されます。

パスワードは、ディスクにもバックアップ ファイルにも格納されません。必ずパスワードを忘れないようにしてください。忘失したパスワードをリカバリすることはできません。

バックアップ計画を編集 『23ページ』し、パスワードを変更または削除した場合、保持ルールは、古い暗号化設定のバックアップには適用されなくなります。また、暗号化設定が異なるバックアップ セットについて、バックアップ ストレージ内の個別のエントリが表示されます。リカバリ中、正しいエントリを選択し、正しいパスワードを入力する必要があります。

通知

バックアップが成功した後、または失敗した後、あるいはその両方で、電子メール通知を送信するかどうかを指定します。

通知を送信するアドレスを指定します。複数の電子メール アドレスはセミコロンで区切ります。例:**user1@example.com; user2@example.com**

通知は、システム管理者が指定した電子メール アドレスから送信されます。

除外

1 つまたは複数の基準を入力します。指定した基準のいずれかに一致したファイルおよびフォルダはバックアップされません。

このオプションは、次のファイル システムに格納されたファイルおよびフォルダについてのみ有効です。

- FAT
- NTFS
- Ext3
- Ext4

どのファイル システムであっても、このオプションは、論理ボリュームとも呼ばれる Linux LVM (論理ボリュームマネージャ)によって管理されるボリュームと、Linux ソフトウェア RAID と呼ばれる複数ディスク (MD)デバイスに対しては有効にはなりません。

基準を指定する方法

次の基準を使用できます。

- **ファイルまたはフォルダへの完全パス。**ドライブ文字 (Windows のバックアップ時) またはルート ディレクトリ (Linux のバックアップ時) から始まります。

Windows と Linux の両方で、ファイルまたはフォルダ パスにフォワード スラッシュを使用できます (**C:/Temp** や **C:/Temp/File.tmp** など)。Windows では、従来のバックスラッシュも使用できます (**C:\Temp** や **C:\Temp\File.tmp** など)。

- **ファイルまたはフォルダの名前。**たとえば **Document.txt**。この名前のすべてのファイルおよびフォルダが除外されます。

複数の基準はセミコロン (;) で区切ります。

基準では大文字と小文字は区別しません。たとえば、すべての **.tmp** ファイルと **C:\Temp** フォルダを除外することにした場合、すべての **.Tmp** ファイル、すべての **.TMP** ファイル、および **C:\TEMP** フォルダが除外されます。

ワイルドカード文字

基準では、1 つまたは複数の * および ? のワイルドカード文字を使用できます。これらの文字は、完全パス内やファイルおよびフォルダ名で使用できます。

アスタリスク (*) は、ファイル名内の 0 個以上の文字の代わりになります。たとえば、**Doc*.txt** という基準は、**Doc.txt** や **Document.txt** などのファイルに該当します。

疑問符 (?) は、ファイル名内のちょうど 1 文字の代わりになります。たとえば、**Doc?.txt** という基準は、**Doc1.txt** や **Docs.txt** などのファイルに該当しますが、**Doc.txt** や **Doc11.txt** のファイルには該当しません。

VSS

バックアップ中にボリューム シャドウ コピー サービス (VSS) を使用するかどうかを指定します。

このオプションは、VMware Tools がインストールされた 『3ページ』 コンピュータでのみ有効です。

このオプションは、ファイル システムが確実に一貫した状態でバックアップされるようにします。Windows を実行しているコンピュータの場合、このオプションは、Microsoft SQL Server などの VSS 対応アプリケーションで使用されるすべてのデータの一貫した状態も確保します。

このオプションを使用しない場合、バックアップ プロセスは高速になりますが、データの一貫性は保証できません。

1.6.2 バックアップ計画の編集

重要: バックアップ計画に加えた変更は、バックアップ計画が適用されるすべての仮想コンピュータ (自身のコンピュータと他のユーザーのコンピュータ)に影響します。

バックアップ計画を編集するには

1. **[バックアップ計画]** タブを開きます。
2. 編集するバックアップ計画を選択し、**[編集]** をクリックします。
3. 名前、スケジュール、保持ルール『17ページ』、および バックアップ オプション『20ページ』を表示または変更します。
4. **[OK]** をクリックします。

暗号化の変更による影響

[暗号化] 設定を変更する (暗号化を有効または無効にするか、パスワードを変更する)必要がある場合、次の点を考慮してください。

- 古い暗号化設定のバックアップには**保持ルールは適用されなくなります**。これらのバックアップは手動でのみ削除『24ページ』できます。
- 暗号化設定が異なるバックアップ セットについて、バックアップ ストレージ内の**個別のエントリが表示されます**。リカバリ中、正しいエントリを選択し、正しいパスワードを入力する必要があります。

[暗号化] 設定が異なる別のバックアップ計画が適用されているコンピュータにバックアップ計画を適用するときに、同じことが起こります。

1.6.3 バックアップ計画の取り消し

コンピュータからバックアップ計画を取り消した場合、現在バックアップが実行していればこのバックアップは停止します。コンピュータは、バックアップ計画が再度適用されるまでバックアップされなくなります。コンピュータのバックアップは、手動で削除『15ページ』するまでバックアップ ストレージ内に保持されます。

バックアップ計画を取り消すには

1. 組織名を示したタブを開きます。
2. バックアップ計画を取り消す 1 つまたは複数のコンピュータを選択します。
3. **[バックアップ計画の取り消し]** をクリックします。

1.6.4 バックアップ計画の削除

バックアップ計画を削除すると、バックアップ計画は、適用されているすべてのコンピュータ（自身のコンピュータと他のユーザーのコンピュータ）から取り消され『23ページ』、バックアップ計画の一覧から削除されます。

バックアップ計画を削除するには

1. **[バックアップ計画]** タブを開きます。
2. 削除するバックアップ計画を選択し、**[削除]** をクリックします。
3. バックアップ計画の削除を確認します。

1.7 使用状況レポートの生成

この機能は管理者だけが利用できます。

使用状況レポートは、組織内でのバックアップ サービスの使用に関する履歴データをもたらします。組織がサービスに対して請求される金額を計算するために、これらのレポートが必要になる場合があります。

レポートの内容詳細

すべてのパラメータの値は、vCloud Director の時刻設定に従って毎日 23:55 に確認されます。レポートは、その時刻に確認された値を使用します。

レポートには、組織に関する次のパラメータが含まれます。

- **[保護された VM 数]:**保護されているマシン（つまり、バックアップ計画が適用されるマシン）の合計数。これらのマシンのバックアップが存在するかどうかには関係ありません
- **[ストレージ使用状況]:**バックアップストレージ内のすべてのバックアップの合計サイズ（GB 単位）。このパラメータは、バックアップサービスの設定に応じて、レポートから除外される場合があります。

- **[バックアップデータ]:**バックアップされたデータの合計容量。この容量には、仮想マシンディスクの初期コンテンツと、そのコンテンツに対してその後で追加された変更が含まれます。
- **[クォータ超過]:**組織に対して設定されたクォータを超過したデータの容量 (GB 単位)
- **保護されている VM のディスクサイズ:**保護されているマシンのハードディスクの合計サイズ (GB 単位)。ディスクでの占有スペースには関係ありません。
- **保護されている VM の RAM サイズ:**保護されているマシンのメモリの合計容量 (GB 単位)
- **保護されている VM の CPU 数:**保護されているマシンの合計 CPU 数

使用状況レポートを生成するには

1. **[バックアップ ストレージ]** タブを開きます。
2. 最下部の **[ストレージ使用状況]** エリアを展開し、続いて **[使用状況レポートの生成]** をクリックします。
3. **[期間]** でレポート期間を選択します。
 - **[現在のカレンダー月]:**このレポートには、現在の月の最初の日から当日まで (23:55 以降にレポートを生成した場合)、または前日まで (23:55 以前にレポートを生成した場合)のデータが含まれます。
 - **[前のカレンダー月]:**このレポートには、前月のすべての日のデータが含まれます。たとえば、4 月には、3 月 1 日から 3 月 31 日の時間間隔のレポートが得られます。
 - **[カスタム期間]:**レポートには、指定した間隔のデータが含まれます。
4. **[種類]** でレポートの種類を選択します。
 - **[日次統計]:**このレポートには、レポート期間の毎日のレポート パラメータの値が含まれます。レポートには、期間全体にわたるレポート パラメータそれぞれの最大値、最小値、および平均値などのサマリも含まれます。
 - **[サマリ レポート]:**このレポートにはサマリだけが含まれます (前のオプションを参照)。
5. **[OK]** をクリックします。レポートは、個別のブラウザ ウィンドウまたはタブに表示されます。

6. [オプション] レポートを印刷するには、**[印刷]** をクリックします。カンマ区切り値 (.csv) ファイルとしてレポートを保存するには、**[.csv ファイルとして保存]** をクリックします。

1.8 サービスの非管理者による使用の有効化

バックアップ サービスの使用には、サービスへのログイン、バックアップおよびリカバリの実行、バックアップおよびバックアップ計画の管理が含まれます。システム管理者は、バックアップ サービスにアクセスするための専用の vCloud Director の役割を作成できます。

組織管理者は、vCloud Director のどの役割のメンバーでもサービスを使用できるように設定できます。

vCloud Director の役割のメンバーがサービスを使用できるようにするには

1. バックアップ サービスにログインします。
2. **[設定]** タブをクリックします。

ソフトウェアにより、vCloud Director の役割の一覧が表示されます。

3. 役割の **[サービス有効]** チェック ボックスをオンにします。

この役割のどのメンバーもバックアップ サービスを使用することができます。vCloud Director の役割をユーザーに割り当てる方法についてアドバイスが必要な場合は、次のセクションを参照してください。

1.8.1 ユーザーへの vCloud Director の役割の割り当て

以下の手順は、次の種類のユーザーの両方に有効です。

- **ローカル ユーザー:** vCloud Director でアカウントが作成されたユーザー
- **LDAP ユーザー:** Active Directory などの LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) ディレクトリから vCloud Director にアカウントがインポートされたユーザー

役割をユーザーに割り当てるには

1. vCloud Director にログインします。
2. **[Administration] (管理) > [Users] (ユーザー)** をクリックします。

3. バックアップ サービスにアクセスできる役割をユーザーに割り当てます。

役割を割り当てるとすぐに、ユーザーはサービスを使用し始めることができます。

LDAP ユーザーの代替方法

組織に、非管理者 LDAP ユーザーが多数存在する場合、別の手順に従って、これらのユーザーがサービスを使用できるように設定できます。

LDAP グループに役割を割り当てるには

1. LDAP サーバー (Active Directory ドメイン コントローラなど)にログオンします。ここから、ユーザー アカウントが vCloud Director にインポートされます。
2. LDAP ディレクトリにグループを作成します (**vCloud バックアップ サービス ユーザー**など)。
3. ステップ 2 で作成したグループに、サービスにアクセスさせるすべてのユーザーを追加します。

これで、LDAP サーバーからログアウトできます。

4. vCloud Director にログインします。
5. **[グループ]** ページで、ステップ 2 で作成したグループを探します。
6. バックアップ サービスにアクセスできる役割をグループに割り当てます。

LDAP サーバーでグループ メンバーを追加または削除することによって、サービスを使用できるユーザーを変更できます。

1.9 監査ログの表示

バックアップ サービスには、ユーザーが実行した操作を記録する監査ログが含まれています。

システム管理者および組織管理者は、それぞれの制御領域の範囲でログを見ることができます。

監査ログを表示するには

1. サービスにログインします。
2. **[ログ]** タブをクリックします。

2 用語の参照

vCloudエージェント

vCloud Director 管理クラスター内の専用の仮想マシン上で実行するバックアップサービスインフラストラクチャのコンポーネント。

バックアップ（操作）

復元の目的で、仮想マシンに関する情報をパッケージ形式で保存する操作。

バックアップ（復元ポイント）

1 回のバックアップ処理の結果。

バックアップは、ユーザーが仮想マシンを復元できる時点を表します。復元に必要なデータは、2 つのロケーションに格納されます。仮想ディスクと仮想マシン構成の内容は、バックアップストレージに格納されます。vCloud でのマシンのメンバーシップを反映するメタデータ（仮想ネットワークアダプタ構成、コンピューター名、マシンが所属する vApp）は、vCloud エージェント内部に格納されます。

バックアップ計画

仮想マシンを保護する方法を定義する一連のルール。

このルールには、バックアップスケジュール、保持ルール、およびパスワードによるバックアップの保護などのバックアップオプションが含まれます。例：毎日深夜にバックアップを実行する、1 カ月より古いバックアップを削除する、パスワードでバックアップを保護するなど。

バックアップ計画の所有者

バックアップ計画を作成した組織ユーザー。

システムのバックアップ計画には、**システム**と呼ばれる特別な所有者が存在します。組織内のシステム管理者が作成したバックアップ計画の場合も所有者は**システム**です。

バックアップストレージ

組織のバックアップを格納するためにシステム管理者が割り当てたフォルダ。

管理クラスター

vCloud Director インフラストラクチャコンポーネントを含む ESX(i)クラスター。

組織管理者

vCloud Director で組織管理者の役割を担うユーザー。

組織管理者は、組織内のどの仮想マシンでもバックアップや復元を行うことができます。

保護されているマシン

バックアップ計画が適用される仮想マシン。

復元

バックアップで以前に保存されたデータを使用して、仮想マシンを作成または上書きする操作。バックアップした同じマシンを復元に選択した場合、このマシンは上書きされます。それ以外の場合、新しい仮想マシンが作成されます。

リソースグループ

vCloud Director 組織の仮想マシンを含む 1 つまたは複数の ESX(i)クラスター。

保持ルール

バックアップを保持する期間を指定するバックアップ計画の一部。

ストレージのクォータ（割り当て量）

組織に対して割り当てられた記憶域スペースの容量。

クォータを超過した場合、システム管理者と組織ユーザーには、バックアップサービスのインターフェースにアラートが表示されます。バックアップサービスの使用制限は、システム管理者が手動で行わないかぎり、適用されません。

システム管理者

vCloud Director でシステム管理者の役割を担うユーザー。

システム管理者は、どの組織のどの仮想マシンでもバックアップや復元を行うことができます。システム管理者は、組織ユーザーが組織内の仮想マシンをバックアップできるように許可できます。

システムのバックアップ計画

多くの組織でできるように、システム管理者によって事前に定義されたすぐに使用できるバックアップ計画。組織ユーザーは、システムのバックアップ計画を仮想マシンに適用できます。

システムのバックアップ計画のスケジュールまたは保持ルールに対する変更は、その計画を使用可能にしたすべての組織に影響します。

ユーザー

vCloud Director でのユーザーアカウントを所有する人物。

vCloud Director でユーザーアカウントに割り当てられる許可に応じて、ユーザーはシステム管理者の場合も、組織管理者の場合も、組織内の非管理者ユーザーの場合もあります。

vApp

vCloud Director 内で作成され、vCloud Director 内で単一のエントリとして管理できる一連の仮想マシン。